

災害物資の「小箱」 熊野市に300個贈る

日本非常食推進機構

【熊野】日本非常食推進機構(古谷賢治代表理事)は十九日、熊野市役所で非常食や水などが入った災害物資「白い小箱」三百箱を同市に贈呈した。小箱は市



を通じて同市身体障害者(児)福祉連合会、同市母子寡婦福祉会の二団体に提

供される。

小箱の贈呈は、昨年十二月に同市と同機構が結んだ「災害救助に必要な物資の調達と普及啓発に関する協定」に基づくもので、市役所を同機

「白い小箱」を手にする古谷代表理事(中央)と尾中防災対策推進課長(右)熊野市役所で

構の古谷代表理事が訪れ、同市防災対策推進課の尾中弘明課長に小箱のセットを手渡した。

古谷代表理事は贈呈後、「一般住民にもこうしたセッットを知ってもらい、災害時に備えて自ら非常食を準備していく第一歩にしてほしい」と話した。

同機構では、県内外の約百事業所の協賛を得て「白い小箱運動」を実施。これまで四日市市など県内十九市町と同様の協定を結び、非常食や水のほか、防寒シートや尿取りパッドなどを備えた小箱を数千箱提供してきた。

今後は、県内の各自治会などや行政イベントなどでも配布するほか、小学校での防災教育などにも活用していくという。